

ハンドボール

特集

第65回国民体育大会

12 5

DEC.2010・No.515



[表紙写真：第65回国民体育大会少年男子の部優勝の山口県・久保三千笑選手：写真提供・スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会

<http://www.handball.jp/>



molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ 国際公認球 | 検定球

縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ 国際公認球 | 検定球

縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

全日本社会人ハンドボール 連盟設立を契機に



(財)日本ハンドボール協会常務理事 江成 元伸

平成22年4月、全日本社会人ハンドボール連盟（以下、社会人連盟という）は下記の事項を目的として設立されました。(1) 全日本社会人ハンドボール競技団体を統括し、相互の親睦を図り、技術の向上と社会人ハンドボールの健全な普及発展を目的とする。(2) (財)日本ハンドボール協会の組織団体として緊密な関連を保ち、斯界の興隆に寄与し、国内の各社会人競技団体と連絡を密にし、社会人スポーツの発展を図る。(3) 国内外のハンドボール団体との交流及び国際間の親善を図る。

社会人連盟が発足し、既存の各連盟を除いたすべてのチームを「社会人連盟傘下のクラブ」と位置づけ、社会人連盟の組織を設立・編成し、各登録区分・各大会の運営を連携させて組織を編成します。

社会人連盟内における組織は、大会別に編成する計画をしています。「社会人委員会」は、平成22年度中に実連を発展的解消して組織名変更をお願いすることとし、社会人選手権（現実業団選手権）の出場チームの活動及び大会組織を統轄します。「ジャパンオープン委員会」は、ジャパンオープン選手権大会の出場チームの活動及び大会組織を統轄します。委員会構成メンバーは、今年ジャパンオープンを開催した山口県協会、今後ジャパンオープンを開催する各協会とします。「クラブ委員会」は全国クラブ選手権大会・東地区大会、西地区大会の出場チームの活動及び大会組織を統轄します。委員会構成メンバーは、東地区開催地の福島県協会、西地区大会（過去は持ち回り開催）を今年開催した協会、今後西地区大会を開催する予定の各府県協会とします。「都道府県委員会」は、各都道府県で開催されている「リージョナル」区分の大会（名称は各都道府県で不統一）に出場チームの活動及び大会組織の代表者とします。

平成23年度のハンドボール活動の今までの違いは、登録区分が変わることだけです。社会人連盟という設定が増えるだけで、基本的には今年度と変わりません。登録金も社会人連盟が設立したことによる値上げは考えておらず、将来的にも、従来の登録金の中での組換えで対応していきたいと考えています。

今回の社会人連盟設立の大きな狙いは従来組織として一本化されていなかった、いわゆる「クラブチーム」の再編成にあります。現在の実連のチームもリージョナルのチームも同じ「クラブ」の位置づけと整理します。この連盟設立により小学生、中学生チームを除き、日本協会に登録しているすべてのチームは、加盟団体である各都道府県協会及び連盟に所属することになりました。今後は社会人連盟の各委員会の機能的活動内容等を充実させ、各委員会に所属する大会を盛り上げるための方策を構築していきたいと思っています。

一方、この連盟はあくまでも日本協会に登録しているチーム、選手を統括していますが、現在日本協会の大きな問題となっている登録人口の拡大という命題からすると、全国で日本協会に登録しないで活動している大会、チーム、選手を日本協会に登録していただくように働きかける方策も包含しています。この記事が掲載される機関誌は、本協会に登録しているチームに登録料の一部として配布されています。近年、巻頭言は日本協会のホームページにも配信されています。日本協会に登録されていない方々もこの記事をごらんいただき、状況をご理解いただくとともに、ぜひ日本協会に登録していただき、あらゆる人が「ハンドボール」を私たちのスポーツとして共有していくように働きかけていきたいと考えています。

ご承知の通り、日本協会は私たちの楽しみとしての「ハンドボール」を広めようとする「普及」、より強くそして世界の頂点をめざそうとする「強化」を二大車輪として事業を行っています。普及という意味からは選手第一と考え、大会をひとつでも多く、試合数をひとつでも多く設定したいと考えています。また、強化という意味からは楽しみの試合・大会から少しでも強くなりたいという試合・大会への発展も考えています。現在10万人を超えたハンドボール人口を20万人、30万人へと拡大していくためにも、多くの方々のご理解を得まして、社会人連盟が発展するようご支援、ご協力をお願いいたします。

第65回 国民体育大会 ハンドボール競技



【最終結果】

種別	優勝	2位	3位	4位	5位
成年男子	愛知県	埼玉県	佐賀県	広島県	茨城県、岩手県、千葉県、福井県
成年女子	熊本県	広島県	石川県	大阪府	京都府、東京都、茨城県、千葉県
少年男子	山口県	福井県	香川県	大分県	愛知県、岩手県、神奈川県、千葉県
少年女子	愛知県	京都府	大阪府	山口県	千葉県、岐阜県、東京都、香川県

【総評】大会を振り返って

千葉県ハンドボール協会理事 内記 英夫

第65回ゆめ半島千葉国体ハンドボール競技が9月29日の諸会議・オープニングセレモニーを皮切りに、競技は30日から10月4日までの5日間、市川市・香取市の6会場で開催され、無事大会を終了いたしましたことをご報告いたします。千葉県では昭和48年に佐原市（現：香取市）で開催した「若潮国体」以来、37年ぶりの開催となりました。

平成17年に「きらめき総体」を香取市で男子の部、市川市で女子の部を開催し、国体も両市で2種別ずつ実施する予定でしたが、平成18年3月に佐原市が1市3町で合併し香取市となったため、ハンドボール・ボート・カヌーの3競技を実施することになりました。当初、香取市の現場では3競技実施は無理なので、ハンドボールを返上したらどうかとの意見もあったようですが、千葉県のハンドボールのメッカである佐原でハンドボールをやらないわけにはいかないという宇井・香取市新市長のご決断により、少年男子1種別の実施を決定していただきました。それに伴い市川市に3種別実施を引き受けて頂きましたが、会場が4会場必要となり1会場足りないという事態になり会場探しに奔走したところ、昭和学院より国体開催に間に合うように体育館を新築（本年5月

完成）するので使用して欲しいとの申し出をいただきほっといたしました。また、香取市も国体会場として佐原中学校に体育館を新築（本年3月完成）していただきました。両市ともに新築の体育館はもとより、既存の体育館も改修工事を行い、すばらしい競技環境を整備していただきましたことに深く感謝いたしております。

市川市と香取市は約80km程度離れておりますが、平成19年度から両市実行委員会と協会による連絡調整会議を月1回のペースで行い、平成21年度からは連絡調整会議に加え、協会から市川市担当者8名、香取市担当者7名と各実行委員会による担当者会議をそれぞれ月2回のペースで行い準備を進めてきました。

国体ではたぶん初めてとなる競技会場外で行う開始式に変わるオープニングセレモニーを、両市の意向により合同で代表者会議に先立ち市川市文化会館で行いました。香取市からの選手の輸送と選手の負担を考慮し、各チーム5名以内の人数制限をしたため、全選手・役員に参加していただくことはできませんでしたが、新しい試みであったと思います。

また、両市とも市内に宿泊施設が少ないため、市川市では



積水ハウスの「グリーンファースト」は、人にやさしい、人をしあわせにする「環境配慮」の住まい。太陽光発電、燃料電池によりCO2排出量を大幅に削減するだけでなく、暮らしの新しい快適と豊かさを実現します。その住み心地が「ファースト」です。環境にやさしい暮らし、はじめませんか。

快適のつづくエコ。積水ハウスは

詳しい実際は、こちらから

グリーンファースト

検索

www.sekisuhouse.com/gf

一戸建て・共同住宅・クラブハウスのご建築は、当社にお任せ下さい。



積水ハウス株式会社

川崎支店 SUMO武蔵小杉展示場 担当：早川 祐侍



〒211-0067 川崎市中原区今井上町55-10 (SUUMO住宅展示場 武蔵小杉) TEL. 044-739-1621

E-mailアドレス: hayakawa019@sekisuihouse.co.jp 公式ホームページ http://www.sekisuihouse.co.jp

国土交通大臣免許(13)第540号 国土交通大臣許可(特-17)第5295号





6点共
写真提供…スポーツイベント社

ほとんどのチームの宿舎が東京都内となり、香取市に於いても約半数のチームの宿舎が茨城県潮来市となるなど、移動等で大変ご不便をお掛けいたしましたことをお詫びいたします。

市川市・香取市はともに千葉県ではハンドボールの盛んな地域ではありますが、一般市民の認知度はそれほど高くありませんでしたので、両市実行委員会で機会あるごとに啓発活動をしていただき、小学生対象のハンドボール教室も何度か開催していただきました。そのお陰もありまして、今大会5日間で37,968名の一般観客入場者数があり、各試合とも大声援の応援で盛り上げることができました。これをきっかけとして千葉県のハンドボールが更に普及・発展・強化できるように、千葉県ハンドボール協会として努力して参りたいと思います。

開催県としての競技結果は、ここ5年間1種別も入賞していない千葉県としては、全種別5位、男女総合5位、女子総合7位という満足のいく結果を残すことができました。

大会を終え、運営面で選手・役員の皆様にご迷惑をお掛けしたことも多々あったことと思いますが、大会全体としては大成功であったと思っております。これもひとえに、今大会の開催に当たり多大なるご指導とご協力を頂きました日本協会、及び長年にわたり誠心誠意ご準備くださいました市川市・香取市両市実行委員会、大会運営を支えてくださいました関東ハンドボール協会、審判員、競技役員、競技会役員、補助役員、ボランティア及び全ての関係者の皆様のお陰であると深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

最後に来年山口県周南市で開催されます「おいでませ！山口国体」のご成功をご祈念申し上げます。

優勝チームの声

◆成年男子：愛知県

この度は皆さまのご声援とご協力があり、第65回国民体育大会ハンドボール競技で11年ぶりの優勝という最高の結果を残すことができました。これもひとえに皆様方の支えがあつての賜物です。この場をお借りしお礼申し上げます。

大同特殊鋼ハンドボール部主将 末松 誠

私達愛知県選抜は、2年前の大分国体決勝で埼玉県選抜に終始リードしながらも、後半失速しての逆転負け、去年の新潟国体でも決勝で広島県選抜に大敗し、2年連続で決勝で敗れ、悔しい思いをしてきました。その悔しさをバネに日頃の



ハードな練習にも耐え、今回の千葉国体で結果を出そうと優勝の二文字に向かいチーム一丸で臨みました。

優勝を目標に意気込んで臨んだ国体でありましたが、1回戦から思うような試合運びができずに厳しい試合が続きました。しかし、どんなに厳しい戦いが続いても選手全員が自分の役割を徹底し、常にチャレンジャー精神を忘れず、がむしやりに、泥臭くハンドボールに取り組んだことが今回優勝という最高の結果に繋がったと思います。

優勝した瞬間は我を忘れてみんなと抱き合って喜びましたが、表彰式で賞状を頂いてもまだ優勝したという実感が湧い

てきませんでした。翌日の新聞の記事を見て、自分達が悲願であった国体優勝を11年ぶりに成し遂げたという事が実感できました。

今回の千葉国体を振り返ると若手、中堅、ベテランと選手全員がコートの外でも自分の役割を徹底し、チーム全体が一つになって勝ち取った優勝であると感じています。

これからもハンドボールを通して応援して下さいる皆さんに「夢と感動」を共有できるように選手一同頑張って参ります。

今後とも温かいご声援よろしくお願い致します。

◆成年女子：熊本県

今回、輝かしい実績を持つ熊本県成年女子チームの監督をさせていただきました岡崎恭代と申します。私はハンドボールの経験は全くないのですが、1997年の男子世界選手権、1999年のくまもと未来国体、2000年のシドニーオリンピックアジア予選とビッグイベントが本県で開催され多忙を極める中、当時、理事長であった井手和洋先生から「事務局の電話番号をしてほしい」とお声掛けいただいたのが、今日のこの貴重な経験のきっかけとなりました。

そのお声掛けいただいたご縁が、娘が小学校からハンドボールを始め、中学校までプレーし、進学した高校では部がなかったため、マネージャーを務めさせていただいていた高校（熊本工業高校）の監督が当時の県協会事務局長でのちの理事長をお務めになった葦原大三先生だったからです。このお二人には、単なる「娘のハンドボールの追っかけママ」を熊本県ハンドボール協会のお手伝いをさせていただき、今回のようなすばらしいチームの監督をさせていただききっかけを作っていただいた事に心から感謝しております。

少々、前置きが長くなりましたが、監督とはいえ、実際にはオムロンチームの黄ヘッドコーチがおられますので、私は応援団長として、ベンチから選手へ熱い応援をさせていただいただけなのですが、今年度はベテランの選手が抜け、久野

熊本県ハンドボール成年女子監督 岡崎 恭代

キャプテンを中心にスタートを切った新生オムロンが試行錯誤しながら体制を整え、千葉国体で見事優勝の栄に浴するまでには、紆余曲折がありました。

まず、よりによって、九州ブロック大会の1回戦の相手が、本国体の決勝といってもおかしくない鹿児島県だったのです。その1回戦で後半に一時6点をリードされた劣勢から鹿児島県を打破した後の選手達の涙を見たとき、「本当に勝ちたかった！」という強い意志を感じ取ることができました。また、今回のブロック予選では絶対に負けることができない熊本県ハンドボール協会としての特別な理由もあったのです。というのも、今回の千葉国体の熊本県選手団の団長が熊本県ハンドボール協会の島田俊郎会長であること、本県ハンドボール界の生み親藤田八郎先生が現在、お住まい地が千葉県だったのです。その千葉国体では絶対に優勝しなければならないという強い重圧がありました。

そのような強い思いを持って臨んだ本国体では、ミーティングでの黄ヘッドコーチの「僕たちは勝ちに飢えている。勝ちたいんだ！」という言葉を受けて、選手たちも、準決勝・決勝と苦しい試合展開ながらも、全員で声を掛け合い最後の1秒まで諦めない気力がチーム全体にありました。そしてチームの状態は決してベストではなかったと思うのですが、



個々の力不足をみんなでカバーできる選手同士の絆の強さがあり、ベンチ入りした12人の選手だけの力でなく、メンバーから外れた8人の大きな力がそこに存在していたからこそできた優勝ではなかったかと思います。たとえ、実力が同等であったとしても、最後に勝ちをもぎとるのは、「是が非でも勝ちたいという気持ちの強さ」なんだと心から感動しました。今回の優勝チームはまだまだ発展途上の段階にあり、本大会での優勝を糧に、きっとこれからの日本リーグや全日本

総合でも素晴らしい試合を見せてくれるものと期待しております。

最後になりましたが、私に監督という重責を経験させていただき、熊本県ハンドボール協会の関係の皆様方や快く受け入れてくださったオムロンチームの多田幸一ゼネラルマネージャーをはじめ、西窪勝広ゼネラルマネージャー代行、黄ヘッドコーチ、そして20名の選手の皆さんに心より感謝申し上げます、優勝の報告とさせていただきます。

◆少年男子：山口県

この度、第65回ゆめ半島千葉国体におきまして、山口県勢としては18年ぶり10回目の優勝を果たすことができました。これも日頃よりご支援とご協力をいただいております県体育協会、県高体連、市ハンドボール協会、学校関係者、保護者の皆様そして子供たちをハンドボールの世界へと導き、愛情を持って育成していただいた小・中学校の指導者の方々のお陰でありますことを心からお礼申し上げます。

山口県ハンドボール少年男子監督 倉谷 康彦

彼らは中学時代のジュニアオリンピックカップで全国優勝を果たし、「高校でも日本一を」という大きな夢を抱いて入学してきた選手達です。中には片道1時間半以上もかけて通学し、帰宅時間が時には夜中を過ぎる子もいますが、志の高い選手ばかりで、決して手を抜くことなく日々の練習を大切にしてくれました。

しかし、そんな私達に「全国の壁」は常に大きく・分厚い



物でした。身長が180cmを越える選手は一人もおらず、県内でも一番小柄なチーム編成でした。昨年の新潟国体2位、全国選抜3位、沖縄インターハイ3位と何度も何度も「全国の壁」に跳ね返されました。「私が監督をしてなければ…」「高校ではこのサイズでは一等賞にはなれないのか？」そんな思いも頭に浮かんできました。インターハイも終わり、下松工業の選手を加え本格的に国体への練習を開始しましたが、そんな矢先、センタープレイヤーの足首の骨折、右45度プレイヤーが貧血症状を発症するなど山口県選抜のチーム作りも思うに任せない状態でした。

千葉へ出発する前夜、一人娘がかけてくれた「父さんが負

けることは見たくないけんね。諦めんさんなよ」という言葉を胸に、私はこの選手達との最後の全国大会に臨みました。香取市佐原に入り、大会役員やボランティアの方々の本当に暖かいご声援やおもてなしを受け、次第に選手も私も「一日でも長くこの場所で、このメンバーでハンドがしたい。」という純粋な気持ちになっていきました。佐原の皆様方には感謝の気持ちで一杯です。

私にとって、やっととどり着けた悲願の日本一でした。その夜いただいた全国のたくさんの指導者の方々からのお祝いのお言葉は私の一生の宝です。本当にありがとうございました。

◆少年女子：愛知県

この度、第65回国民体育大会において、優勝することができ大変嬉しく思っています。これもひとえに、ご支援、ご協力をいただいた愛知県ハンドボール協会関係者の方々、学校関係者の方々、保護者の方々、愛知県の先生方のおかげであると深く感謝しております。

今年のチームはずばぬけた選手はいませんが、全体的に個々の能力は高く結成初日に「かみあえば日本一になれる」と言ってスタートしました。ただ愛知県は毎年、複数の学校からの選抜チームであり、今年度も5校からの選抜であったので、プレースタイル、戦術等まったく違うチームの選手達を2ヶ月弱の期間で果たして、ひとつにまとめることができるのかという不安はありました。しかし、それも平日の練習で基本的な約束事を確認し、土日に練習ゲームを行い実戦の中で再確認をすることを繰り返すことで、徐々に解消していきました。また、チーム全員が非常に仲が良く、チーム間でのコミュニケーションが多くとれたことも大きかったと思い

愛知県ハンドボール少年女子監督 浅野 清隆

ます。

ただそれでも2ヶ月弱という期間は短く、直前の練習やゲームの中でも約束事が徹底されなかったり、まだやり残したことがある状態で、1回戦の石川県との試合を迎えました。

その試合ではやはり不安が的中し、石川県のペースで進む展開で非常に苦しい戦いとなりました。しかし、残り3分で追いつき、30秒で逆転して勝ったことにより、チームに自信と勢いが生まれ、それは、後半に速攻でつきはなした東京都との2回戦、延長の後、7mTコンテストの末、勝利した大阪府との準決勝と勝ち進むにつれ大きくなっていきました。そして、京都府との決勝戦ではまさに100点満点とも言える内容のゲームができ、優勝という最高の形で大会を終えることができました。

最後になりましたが、大会運営に尽力されました多くの関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真提供…スポーツイベント社

戦評

【成年男子】

▼3位決定戦

佐賀県 28 (11 - 12、17 - 13) 25 広島県

両チームともフリースローエリア内を固めるディフェンスで3分過ぎ広島県が1点目を決めるも、ロングやミドルシュートの打ち合いを繰り返しなかなか点が入らない。10分過ぎ、ようやく動きが激しくなり、広島県は4番、11番を中心に、佐賀県は7番、4番を中心に得点を重ね、シーソーゲームのまま12対11と広島県のリードで折り返す。

後半、佐賀県は激しいボールチェックによるインターセプトで3点を連続ゴール、その後も激しいチェックにより速攻での得点を重ね、15分には22対15と大きく引き離れた。20分過ぎに佐賀県の連続シュートミスを引きにつけて広島県が反撃、激しいディフェンスの中、なかなか得点につながらない佐賀県に対しロング、サイドと多彩なシュートで得点を重ねた。この勢いで押し切るも、スタートの佐賀県のリードを埋めることが出来ず、28対25で佐賀県が勝利を手にした。

▼決勝

愛知県 30 (15 - 15、15 - 14) 29 埼玉県

前半が埼玉県のリードで後半が愛知県のペースと緊迫した四つ相撲の決勝戦となったが、負傷中断が相次ぐ激しい試合を最後は愛知県が総合力で制した。

愛知県は3人がフリースローラインの外に出る3-2-1ディフェンスで、埼玉県は6-0から相手の2番・野村にマークを厳しくする戦法で、5分までは2対2。7分20秒、得点された後のクイックスタートで埼玉県3番・小澤が得点を返すと埼玉県に勢いが出て、その後4連続得点をあげて主導権を握る。11分27秒に愛知県はタイムアウトで相手のペースを絶つと2番・野村のロングシュートが決まって白熱した展開となった。前半の終盤に愛知県4番・末松のカットインシュートが相次ぎ、15対15のイーブンで折り返した。

後半は早い帰陣で埼玉県のクイックスタートを封じた愛知県が埼玉県7番・石川のロングシュートなどを許したものの攻守のリズム良く次第にペースを自分達のものとし、19分には26

対21と5点差まで広げた。埼玉県は中盤で組織的な攻撃を見失いシュートミスが目立ったが、終盤ではプレス気味ディフェンスに切り換えて得意の速攻がはじまり、終了前の5分間には4連続得点をあげて1点差まで迫った。しかし、残り10秒で得たノーマークをGKの阻止に合い万事が休した。

【成年女子】

▼3位決定戦

石川県 31 (19 - 13、12 - 12) 25 大阪府

石川県が立ち上がりリードを保ち終始ゲームを支配した。大阪府のパワーあるプレーをスピードで封じ、大阪府に十分なプレーをさせずに振り切った。

試合開始直後に石川県・上町のポストシュート、ステップシュートでリズムをつかみ、その後も野路、佐久川らの速攻、カットインシュートで着々と加点し、10分には9対3とリードした。大阪府は石田の速攻により4連続得点で3点差まで追いついたが、石川県の堅いディフェンスを崩せず、6点差で折り返した。

後半に入って、大阪府は中盤に乾のサイドシュートで3点差、終盤にまた岡本のみドルシュート等で4点差まで追いつき会場を盛り上げたが、石川県に振り切られた。大阪府は実力のある石川県に対し果敢に攻め、ゴールキーパー上山の好捕も光り、その善戦と健闘ぶりは称賛に値する。

▼決勝

熊本県 19 (10 - 10、9 - 8) 18 広島県

互いに堅い守りでなかなか相手に得点を与えない好ゲームとなったこの試合は、終盤、2本の速攻をものにした熊本県が1点差で広島県を振り切り2年連続20回目の優勝で偉業を成し遂げた。

前半は厳しいディフェンスから速い攻撃をしかける熊本県が2番・藤井、8番・石立などのロングシュートやカットインで得点するのに対して広島県は6番・植垣のブラインドシュート、3番・村山の切れ味鋭いカットインプレーで加点した。両ゴールキーパーの好セーブもあり、10対10の同点で折り返した。

you me

株式会社 イスミ
本社/〒732-0828
広島市南区京橋町2-22
TEL (082) 264-3211(代)



時代の流れとともに、刻々と変化するお客様ニーズ、数ある商品の中から、常に新しい価値を厳選してお届けするゆめタウンは、流通のエキスパートとして、暮らしのパートナーとして、お客様の暮らしの夢をさらにひろげたいと考えています。もっと大きな明日へ。動き続けるゆめタウンです。